

## BLJ2015 プロポーザルの「地域賞審査基準に用いる提案」について

Build Live Japan 2015 (BLJ2015) に先立ち、広く意見とアイデアを募る「プロポーザル」で「この建築物(群)を作るとなぜ地域の活性化につながるか」についてのアイデアを募集したところ、7団体より12ものプロポーザル提案をいただきました。

どの提案にも素晴らしい点があり、中には今後の杵築市の活性化に向けて現実に実施される可能性がある内容も含まれ、地域からは大変喜ばれています。12の具体的なプロポーザル提案があるおかげで、有識者・住民を含めた地域での議論も深まりました。提案された全てのチームに厚く御礼申し上げます。

さて、9月のBLJ2015では、BIMを活用した革新的な3次元設計プロセスの提案とともに、現実の住民に対する提案が期待されており、地域賞(杵築大賞1本、杵築賞2本、計3本)が設定されています。プロポーザル提案から「的確性」、「実現性」、「独創性」の観点で地域・主催者などによる審査を行い、応募提案の中から若干点数を選定し、BLJ2015に先だてて選定提案を公開します。それらは、地域賞の審査基準の一部を構成することになります。各観点における審査基準は、以下の通りとなっています。

- 「的確性」については、住む人がいてこそその「まち(=人が集まり住んでいる所)」であることから、観光を目的としつつも、住んでいる人が愛着や誇りをもち、住みたいと思えるような機能を入れる提案が期待されます。また、まちなみの「なみ」とは連続性があることをさし、新築建物と既存建物との連携、建物と空き地の間の連携が重要です。
- 「実現性」については、課題の12敷地を一気に整備するのは難しいことから、地域として段階的に取り組み実現していくことが可能な提案が期待されます。
- 「独創性」については、観光に関しては杵築ですでに過去に実施済みの内容もみられたので、これまでにはみられなかった新しい提案が期待されます。

結果的に、1つの提案で全ての項目にマッチしているものはなく、いくつかのカテゴリーに分類したうえで選定をすることとなりました(別添資料を参照:同一カテゴリーでの提案は、提出順で記載しています。また、別添の提案概要一覧表に、選定に係る部分を色づけしました)。

### 【機能提案】

住民を主役とした機能の建物につながる提案として、日本工学院八王子専門学校(滞在型学習・地学地就)、中部大学(食を介した交流)、国土館大学(総合医療タウン)。整備において、完成までのステップをつなぐ提案として日本文理大学(建てないことによる活性化)。

### 【宿泊の付加価値】

宿泊に杵築の文化をベースにした付加価値を与える提案として、東京都市大学一宿泊チーム(宿泊客による活性化)。スカンクワークス(前田建設工業株式会社)(文化の香りがする個性的なまちづくり)。

### 【ソフト提案】

イベントをよりブラッシュアップする提案として、東京都市大学ーマッピング、芝浦工業大学。

これらの選定によって、BLJ2015に向けて、地域での議論における考え方の方向性がある程度おわかり頂けるのではないのでしょうか。地域賞を目指されるにあたり、ご参考にしていただけましたら幸いです。

以上の議論を踏まえ、BLJ2015の設計条件の方向性も徐々に定まってきました。引き続き、段階的に審議内容を公開していきます。